

令和6年度 第1回社会教育委員会・文化ホール運営協議会合同会議会議要録

日 時： 令和6年11月19日（火） 午後2時00分開会

場 所： 豊能町立西公民館美術室

出席者：	社会教育委員	遠藤 克俊
	社会教育委員	馬渡 美保子
	社会教育委員	上西 初夫
	社会教育委員	橋本 謙司
	社会教育委員	橋本 晃一
	社会教育委員	井畑 亜紀子
	社会教育委員	久保田 慶子
	社会教育委員	四位 龍夫
	文化ホール運営協議会委員	高橋 征二
	文化ホール運営協議会委員	富永 賀子
	教育長	板倉 忠
町部局：	政策監	大西 隆樹
事務局：	こども未来部長	仙波 英太郎
	生涯学習課長	中谷 匠
	生涯学習課課長補佐	大森 啓史
	生涯学習課	小嶋 均

会議次第

【事務局】

令和6年度の第1回社会教育委員会、文化ホール運営協議会の合同会議を開催いたします。開会にあたりまして、教育長よりあいさつをいただきます。

【教育長】

私は、この会議は初めてで、職務の都合上で委員の皆様にお会いできる機会は年に1回ぐらいになってしまうかもしれませんので、この場でご挨拶させていただきます。

今、私の中で大きくのしかかっているのが、一つは学校の再編という話です。東西両地域に義務教育学校を作るという方針があり、その中での課題は子どもの数が減ってきているということがあり、そのことにより教育効果が薄れるというような議論がずっとありました。学校再編する場合、その目玉というものはいろんな方法があると思います。ひとつは、学校を一つにして子どもの数を増やそうという方法ですが、豊能町はその手法をとらず、私の前任者のときに町内に二つの義務教育学校をつくることで、その課題を解消していこう

と考えられて、今は、二小二中というかたちで進んでいます。

ここで、義務教育学校とは何かという話ですが、地域とともにある学校、コミュニティスクールなどと言われますが、地域の皆さんで学校を支え、作っていくようなものです。学校を先生任せではなく、少子化の煽りで学校自体の活動が十分できなくなるというところを、義務教育学校という手法で地域の皆さんの知恵を持って活性化させ、子どもによい環境をつくってあげようとするのが義務教育学校、コミュニティスクールです。そのことによって、東、西地区それぞれの学校をよりよくしようというのが、私は今、進んでいる方向と思っています。

ですから、学校サイドでは、先生方に義務教育学校はどんなもので、子どもたちにとってどんなふうな学校を作ったら課題解消になるのかというところを、今、校長先生に投げかけているところで、その渦中で頑張らせていただいています。令和 8 年の 4 月に、子どもにとっていい学校ができたと思います。ただ、まだ、そこはスタートで、それからまたもっと練り上げていかなければならないと思っています。

もう一つが、町の課題となっている人口減です。町の今後のあり方について、町長は 1 万 5000 人規模の町を想定して、そこに見合ったまちづくりをしようというのが町長の考えで、それに沿っていきますと公共施設の再編というのが大きな命題になってきます。公共施設の再編について、どうしていくのかというところが今の課題です。

その公共施設のほとんどが社会教育施設なのです。これは教育委員会の管轄するところですが、その再編について町の方針とともに教育委員会も一緒に考えていかないといけないということです。町部局に対しても、教育委員会としてはいろんな願いや意見をして協議しながら公共施設の再編を進めていかなければならないと思っています。

社会教育委員、文化ホール運営協議会委員は、教育委員会に対して社会教育行政についてご意見をいただくというのが役割となっています。この会議は、この議題ですでに 2 回協議をしていただいているということですが、公共施設再編について今の進捗状況など説明しますので、そこで委員の皆さんのご意見をいただき、これからの行政に活かしていこうと思っています。どうかよろしくお願いします。

(社会教育委員委嘱状交付)

【事務局】

教育長は所用がありますので、この場にて退席させていただきます。

今回の会議の議題は、公共施設再編を主な議題とする合同会議でありますので、議事進行は事務局で進めさせていただきます。本日の資料として、町部局より施設再編に関する資料をいただいております、それに関して、政策監もおいでいただいております。そこで、まず政策監から資料説明していただきます。

【政策監】

公共施設再編の進捗状況等について説明させていただきます。まず、初めに東地区の方では、旧双葉保育所、それから診療所、中央公民館などの施設を壊して、新しいものを建てるということで事業を進めているところです。町には、長年、ダイオキシンの問題が残っており、また、皆さんご承知のことだと思いますが、余野地区の自治会の皆様の深いご理解のもと、今の中央公民館前のバスロータリー付近に処分施設をつくる方向で合意をいただくことができました。そこで、それに向けて、すでに中央公民館付近で進入路の工事をしております。間もなく完成しようとするところですが、工事は順調に進んでおります。まず、余野地区の皆さんの深いご理解があって、事業が進むことができたことを報告させていただきたいと思います。

公共施設再編について、施設再編のスケジュールというものが大体固まってきましたので、まず、ご説明をさせていただきたいと思います。

配布資料では、順に東地区再編の設計関係、工事関係、西地区の設計関係、工事関係という四段で出させていただいています。まず、東地区の施設再編の設計関係ですが、現在、東地区のワークショップ、それから基本計画、基本設計の策定を進めているところです。今の予定では、令和7年の10月ごろをめどに、基本設計までを策定したいと考えているところです。もうすでにワークショップを3回行っているところでございます。

次に、西地区の設計関係ですが、もうすでにワークショップを開始しており、令和8年の3月末を目標に基本計画までを策定したいと考えているところです。同時に西地区については、ふれあい広場から豊寿荘までのこの一帯を再編する施設計画ということで進めておりますので、どの場所で設定していくのか、棟数はどのようにするのかということを、ワークショップで検討していただきたいと思っています。

東地区の方は令和7年10月頃に基本設計が終わりましたら、実施設計の策定に入り、何とか令和8年中には実施設計を完成させたいと思っています。東地区は基本設計を進めている間に、工事中の間の代替施設をどうするのか等を検討し、調整して令和8年の4月ごろから解体工事を始めていきたいと思っています。資料では4月ごろと書いてありますが、旧双葉保育所のダイオキシンの工事が順調に進めばもう少し早く工事が始められる可能性もあり、そのところは若干ずれるかもわかりません。令和9年中には施設の建設工事に取りかかり、令和10年の4月には新しい施設を竣工していきたいというような計画で進めているところです。

西地区の設計関係ですけれども、令和7年度中には、基本計画を策定し、基本設計、それから実施設計を策定して、令和9年度中には実施設計までの完了を行いたいというイメージで進めているところです。工事については、令和10年度から工事に着手できるように進めて、過疎債の期限である令和13年3月には完了をさせていきたいというイメージで進め

ているところでございます。

資料、一番下にありますが、このスケジュールは現段階での予定ですので、スケジュール事情は非常に難しい状況になっておりますので、これは大きく変わってくるかも知れませんが、なんとかこのスケジュールで進められるように、私どもとしては努力をしていきたいと思っていますところです。

次にアンケート調査結果をご覧ください。

このアンケートは住民の生活実態や公共施設の利用状況、公共施設に対する意識を把握し、施設再編計画の策定の基礎資料とすることを目的として実施いたしております。対象は、令和6年4月現在に豊能町にお住まいの方で、2000人を対象に実施させていただきました。回答者数は596人、約30%の回答率で回答をいただいております。

アンケート対象者は無作為抽出ですが、できるだけ回収数が各世代で同じ数になるように、これまでのアンケートにおける年齢別回収率をもとに、年齢別に配布数を比例配分しました。調査期間は令和6年4月19日から5月10日ということで実施させていただきました。数的には幅広い年代の方から同じような数の回答をいただいたのではないかと考えております。

アンケート内容では、こういった施設が多く利用されているかというようなこと、東西地区のそれぞれの利用状況を記載しています。

次に資料5ページは、居場所づくりというものを公共施設でつくっていきたくて思っておりますので、居場所の考え方などについて住民の方がどう考えておられるのかをお訊きしているものでございます。

9ページでは、新しい公共施設をどのような空間にしたいのかということを記述しています。結果として、賑わいや人々の暮らしを便利に、豊かにする空間で、災害機能や余裕をもった駐車スペース、周辺施設と連携した施設を希望する方が多くありました。

施設についてどのような機能を有していることが必要ですかという質問に対して、災害時に役立つ機能を兼ね備えていること、周辺施設と連携した利用しやすい施設であること、利用者が駐車しやすい余裕を持った駐車スペースを確保することという回答が多く出されました。

東西で意識の差はみられませんでした。複合施設の空間的イメージとして、東地区の回答、西地区の回答それぞれに、どういう回答が多かったかをまとめさせていただいております。東地区では人々の暮らしを豊かにする空間、これは西地区も同じです。次に、多くの人が集まり賑わいが生まれる空間、これも東西同じようなことで、数字は違いますが、こういった意見をもっておられる方が多かったということで、こういう数値が出ているところです。

資料の最後には、複合施設の工夫について、東西地区でそれぞれの数値を記述しております。東西ともに、周辺施設と連携した利用しやすい施設にすること、それから、利用者が駐

車しやすい余裕を持った駐車スペースを確保すること、災害に役立つ機能を兼ね備えていること、公共交通など利用しやすい施設にすること、などにたくさんの方からの回答が得られています。

これらのアンケート結果をもとに、今、ワークショップを進めさせていただいていますが、これらの意見をもとに、またワークショップの中での意見をもとにしながら、基本計画策定へと進んでいきたいと考えているところです。そこで、そのワークショップのニュースレターがついこの前できましたので、ここで配布いたします。

西地区では第1回のワークショップは7月20日に、第2回は10月2日に実施しております。第1回目のワークショップでは、私たちが暮らす町について、西地区はどんな町かということで皆さんの意見をお聞きしました。その意見を聞いた結果を載せさせていただいていますが、自慢したいところや課題、町としてこうなればいいなというところを確認させていただいております。

このニュースレターはコンサル業者に意見を取りまとめて作ってもらってるんですが、コンサル業者はこういったワークショップに多く参加しておりますが、「豊能町にはいい人がたくさんいるんやで」という意見を言う人が多くて、人を自慢するというか、いい人が多いとかという意見がたくさん出てきて、こんな住民を自慢するところは初めてということでした。先月には、幸福度調査が出まして、豊能町は連続でまた高い数値が出ておりました。当然、課題もたくさんあります。それがすべてということではないんですけども、第1回はこのようなワークショップをさせていただきました。

2回目のワークショップでは、場を考えようということで、皆さんにお気に入りの場所やよく行く場所など持ち寄って、公共施設を再編する場合どのような場所がよいか、皆さんに話し合ってくださいました。そこでの意見としては、西地区は、人が集まれる、ゆっくりできる、仕事ができる場所や空間があればいいなというようなまとめで2回目のワークショップを終えたところです。

東地区では6月29日第1回目のワークショップを行いました。内容としては、西地区と同じように、私たちの暮らす町、東地区はどんな町ということでご意見をいただいたところをまとめています。ワークショップ意見とアンケート結果をトータルして見させていただきますと、大体、同じような意見が出るのかなというようなイメージがしております。

2回目のワークショップでは、家に帰る前に多世代で交流できて、人や自然を生かして発信できる場、多世代の町内外の人が交流できるオープンな場所や空間があればというまとめになっております。東地区では、すでに3回目のワークショップに進んでおり、西地区については12月に3回目のワークショップを開催する予定をしております。3回目では、場づくりをしようということで、ワークショップで議論した内容などを持ち寄りまして、具体的にどんな場所があったらいいのかということ意見を交換しながら進めていきたいと思っています。

ワークショップについては、東西地区とも来年の夏ごろをめどに全部で 7 回の開催を予定しており、今後、どんな場所がよいか、使い方など自分たちで考えていただくということでワークショップを進めていきたいと考えております。

東地区については 10 月ごろには基本設計までを、西地区については大体秋ごろまでにはワークショップを終えて基本計画の概略のようなものを作っていけたらというふうに考えております。一年後ぐらいになろうかと思いますが、こういう場で、設計図やイメージ図を皆さんにお示しできるのではないかなというように思っているところです。

【事務局】

資料の説明をいただきましたが、ご意見やご質問をいただきたいと思います。

【社会教育委員】

2 年ほど前に、まちづくり創造課が主催して、ワークショップというスタイルではなかったが、同じような会合を持っていますね。それは、いくつかのグループに分けてグループディスカッションして、そのグループの代表が発表するという方法でまとめていく。それと今回のワークショップとは、関連はないのですか。

【政策監】

前回のものは、公共施設再編の基本方針を作るために、ワークショップをさせていただいたもので、今後、この豊能町の施設がどうあるべきだろうかというようなところを住民の方と意見交換をさせていただいたものです。

当時、町には公共施設再編検討委員会があり、そこで最終の答申を出していただいたんですが、その前に住民の方の意見をイメージとしてお示しするためワークショップを開催したもので、それらを踏まえて公共施設再編検討委員会より答申が出され、それを受けて町の基本方針を策定したものです。

今回のワークショップにつきましては、具体的にどういう施設を作っていくのかというところで、今ワークショップを進めているというところです。

【社会教育委員】

他にもこのような委員会はあるのですか。私の知り合いの方がこの周辺でどんな施設が欲しいかという委員会をしていると言われたのですが、そこでは公共施設じゃなくとも、例えばカフェとかサウナとか、そんな話でも言える場なのだけどもという話でした。

【政策監】

今、行っているのは、公共施設再編に関するワークショップとそれから学校の跡地利用検討委員会をやっています。

ただ、細かなところはわかりませんが、委員の言われているものは公共施設のワークショップではないかなと思います。

【社会教育委員】

ワークショップは公共施設だけが対象ではないのですね。ここでは、一応、公共施設再整備といっていますが、聞いた話では、別に細部にこだわらずに、何でも言って良いみたいな感じの話で、それで、カフェが欲しいとかそんな話を今ならば意見として言えるということでした。

【政策監】

イメージとして、今の方向性では西地区でいいですよと、今ある吉川支所、ユーベルホール、保健センター、図書館、西公民館、豊寿荘六つの施設を一つにまとめていこうということで話を進めております。これらの施設面積は全部合わせたら 10,000 m²弱あります。これらを、まだ決まったわけではありませんが、半分の 5,000 m²ぐらいにしていこうということです。公共施設としても、役所として必要なもの、例えば吉川支所の機能や公民館の会議室が要るとか、いろいろな必要なものがあると思うのですが、それ以外の部分で住民の方が居場所として楽しんでもいただけるようなところにするためには、あとはどんなものが必要になってくるか、そういうところについていろいろご意見をいただいているという状況です。

行政機能以外の部分において、そこを融合させるということも含めて、どういうものを作っていけばいいのかということで意見交換をいただいているというイメージをしています。

【社会教育委員】

公共施設だけではなく、住民のみんなが集まる場というイメージのなかで考えているということですね。

【社会教育委員】

今、5,000 m²と言われましたが、去年の 10 月のこの会議でも 5,000 m²という一つの線はもう出ていましたよね。施設を全部トータルしたら現状で 10,000 m²、その半分の 5,000 m²というような考え方が、その時の説明だったと思うんです。ただ、その 10,000 m²のうちの 60%が、ユーベルと西公民館か図書館で、ユーベルが大体 4,000 m²なんです。あと 2,000 m²が図書館か西公民館か覚えていないが、そういう面積であったと思います。

【政策監】

ユーベルホールと図書館合わせて約 6,000 m²で、ざっとおっしゃる通りです。

【社会教育委員】

そうすれば、5,000 m²という考え方そのもので、その面積を比例配分すれば、5,000 m²のうち 3,000 m²をユーベルと図書館で占めるというようなことになり、現実にはそんなはずはないので、そのあたりがまだはっきりしていないのか。そもそも 5,000 m²という数値がどこから出てきたのか。今の話では、5,000 m²という数値はまだ確定していないようなイメージで受け取ったんですが、そのあたりは、前回会議の話とちょっとつつニュアンスが変わっているのかと思いお聞きしたのです。

【政策監】

施設再編の当初のスタートラインのときは、かつて、この豊能町自体が 3 万 5000 人のまちづくりを目指して施設整備を進めてきましたが、人口がどんどん減っている状況のなかで、何とか人口 15,000 人をキープしていきたいということでまちづくりを進めているところです。施設面積を、単純にその人口の割からいうと、ほぼ半分になっているところありますので、公共施設も半分程度にしていく必要があるのではないかとこのところから、そういうイメージでスタートしているところです。

ただ、これはあくまでイメージですので、5,000 m²と言いましたけれども、それが確定しているものでもありません。必ず 5,000 m²にするということではありません。逆にコンパクトなものであれば、それが 3,500 m²ならば、そういうのもあるのかなというのも思うところです。

【社会教育委員】

施設再編に関係はないようですが実は関係あるのですけれども、旧総合第一駐車場下にある沈砂池、ユーベルホールの北側にある沈砂池、あれらは災害対策としてずっとそのままに置いておくのですか。ひとつは、今までは駐車場として活用していたけれども、整備計画のなかに駐車場として位置付けて入れていくのか、埋め立ててしまうのか。これらを、ある程度の考え方があって進められているのか。このことは施設整備の際には最終的には残ってくる課題です。

【政策監】

あそこは現状のままではいけないと思っているんですけども、そこは考えていかなければならないと思っています。これまで 100 年に 1 回に降るような大雨で対応できるならば、駐車場下の調整池は無くてもいいだろうということで進めていたんです。しかし、最近では

想定外の雨が降るということで、1000年に1回に降るような大雨でも対応できるようにしなければならないだろうというような考え方が主流で、これは国の方針だと思うんですけども、そういう考えで進んでいます。そうなれば、調整池として残さないといけない、そういう方向で進めています。ただ、あのまま何も使わないというわけにいかないということは思っておりまして、施設再編のなかでどこまで整備できるかというところではありますが、そこは進めていきたいと思っています。

【社会教育委員】

豪雨など思わぬこともあるから、池を無くすと後に事故などの可能性もあるでしょう。ただ、現状の駐車場の土台鉄骨をそのまま放置しておくのですか。土台の鉄骨を撤去して調整池を残しても、何か活用する方法はないかと考えるべきです。施設を利用しようと思えば大きな駐車場がなかったら非常に使いにくいものになります。

【政策監】

今の駐車場を補強して使えるのかどうか、しっかりした調査はしていません。現在のところ未確定な状況ですが、あのままではいけないとは思っています。

【社会教育委員】

今日、このように説明をお聞きできたことはよいのですが、この場で聞いて、何を言ったらよいのかということと、言ってどうなるのかなと思ったこと。また、この会議の場はどういう意味で私たちに説明してもらっているのかというところを教えていただけたらと思います。

【政策監】

基本的には公共施設再編に関して、直接にいろいろ関わっていただいているこの委員会の皆さん方から何らかのご意見をいただく機会を設けたいということを思っています。今日は、今の施設再編進捗状況を、去年の会議で約束させていただきましたので、少し前に進んでいますので、その状況をご説明に上がらせていただいたということです。

【社会教育委員】

それを踏まえて、以前から言ってるんですが、本当は公共施設再編を議論するにあたっては、本来、新しく建てる学校にどういう機能を付加するべきかとか、役場をどこに、今後の役場の機能をどうするかということも併せて、本来やるべきだともうずっと言ってきました。しかし、そうならず、学校は聖域で置いておいて、役場はその後、みたいなことになっていて、それは行政のコストを考えたときすごく無駄と思うのです。

いまひとつは、東の学校を残しますが、もともとは中学校の敷地で残すという話が変わる可能性があるという聞いていますがどうでしょうか。

【政策監】

はい。一応、その変わる方向には動いているということです。

【社会教育委員】

それで、最終的に小学校の敷地に義務小中学校を持っていくと認識はしてるんですけど、その時、例えば新しい役場をどうするのか、もう一方では先ほど委員からの質問もあったように 10,000 m²のうち 5,000 m²ぐらい空くだろうという土地と、それとは別に学校施設も空いてくるので、そこらあたりの空きスペースの議論も、何かすごくごっちゃになっているのではないのでしょうか。例えば、今さっき委員のほうからも「居場所」という話でもでしたが、これをこの 5,000 m²で考えてるのか、いや、学校の空き施設で考えてるのかっていうところが何ともすごく見えづらいんですけど、そこらはすごくタイトですが、この跡地利用も含めて、学校が空いたときにはそれなりに次のステップに進めるような方向で進めていくべきだと思いますが、そのあたりはどういうふうに考えておられるのですか。

【政策監】

まず、役場の件については、本庁舎は耐震もできておりませんので、早急に何とかしていかなければならず、義務教育学校が東能勢小学校の地に行った時点で、整備も含めて考えていけないというように思っているところです。

学校については、東の方は何らかの活用を町の方で考えていかなければなりません。西の方は、三校が空いてきますので、学校跡地利用検討委員会を進めております。町としては、これら施設を単独で維持管理することはもう財政的に厳しく、民間に活用していただくことであったり、住民の皆さん力で活用していただくとか、そういったことで、今、検討を始めたところです。

そこで、令和 8 年の新しい吉中の義務教育学校の開校に向けて、そういう方向で進めているところです。いろんなことが結構一度に進みだしているところなので、ちょっとそのバランスが、という心配をしていただいているのはごもっともかなとは思いますが、担当課でうまくいくように調整していきたいなというように思っています。

【社会教育委員】

この問題はもうずっと続いている問題です。学校の跡地利用を全く外して考えて、生涯学習課が主营する公共施設の再編計画を考えていくというのが、今までの僕のイメージとしてあります。そこで、学校を含めて、支所や本庁、そういったところを含めた施設について

は、当時のまちづくり創造課が中心になって、公共施設の再編検討委員会があって、その総論の説明が、前の副町長からありましたが、そこで一応話は止まっているのです。

明確に学校と他の公共施設を切り離すんだとか、一緒にするんだというふうな話は一切今まで出てきてないし、皆さん、みんなそれを避けて通らざるをえないと思うんです。生涯学習課長に学校施設の話をして、彼の管轄ではないのでどうにもならないと思います。だけどその問題を抜きにして、公共施設というものを本当に考えていいかどうかということになってきます。そこは政策監の判断で決まるんじゃないですか。

【政策監】

学校については、町で単独で活用することはできないと思っていますので、民間活用や住民の皆さんによる活用とか、費用がかからない形で管理運営をする方法などを含めて検討していただいているところです。とても、町が全面的に管理するのはもう正直無理です。それが大前提です。それでは、その前提の中でどういうふうな使い方をしていくか、それはそれで別で検討していただいています。

ここの公共施設については、敷地にするとふれあい広場から豊寿荘まで約 30,000 m²あります。再編にはここの施設を潰していかなければなりません。ただ単に潰すだけならば、相当の費用がかかり、それを町が全部負担しなければならないということになります。そこで、その地を公園にするとかで住民の方に使っていただけるような施設することで、潰す費用も過疎債の対象になってきたりします。そこは総合的に考えていきたいということです。

できるだけ町の経費を抑えていって、皆さんの使いやすいものにしていきたいと考えています。

【社会教育委員】

過疎債のタイムリミットは 13 年の 3 月とおっしゃっていましたがね。そういうことは、ユーベルホール、西公民館、図書館など全部潰してほかの施設を考えるということも含めて、13 年の 3 月末までに完成させなければ、過疎債は使えないということですね。

【政策監】

今のところはそういう感じになります。

【社会教育委員】

そういうことになるんですね。そこでは、公共施設再編云々ということよりも、むしろそちらを潰してどうするかっていうことを考えることの方が先になってくるのではないですか。

【政策監】

それは、公共施設の再編ですから一体的に、新しいその施設を含めて、このあたり一帯をどうしていくのか考えていくことになります。

【社会教育委員】

そうだとすれば、この1年前では大きな変化はないと思いませんか。

【政策監】

今の段階は、計画づくりですから大きな変化はありません。特に西地区は、令和10年、つまり3年先に建設にかかり、3年間で建設を完成させるスケジュールイメージですので、まだ計画もできていない状況で、具体的にどこに施設を建てるのかということも決まっていない状況です。

計画というものはできるまでが非常に長く、流れができだすと一気に動きだすというものがあります。そういうところでご理解いただきたいと思います。

【社会教育委員】

町の計画は、最後はコンサル主導でどこの市町村にでもあるようなものになってしまうということが多々あるが、今回はそういうことにならないのですか。

【政策監】

コンサル主導では、ワークショップ、アンケートを行っている意味がなくなってしまう。今度のコンサルについても、そこはしっかりして認識してもらっており、名前だけを豊能町に変えただけの計画ということにならないようにします。

【社会教育委員】

そこはしっかりしてほしい。住民を参画させるということはすごく大事だが、結果は建物ありきでもないし、それをできた後にどう運営していくかとか、どういうものかという施設に魂を入れることが本当は一番大事です。住民は意見は言うが、施設ができた後には何も関与しないということにだけはならないように。そのあたりをうまくコーディネートしていくような形にされる方がより良いのではと思うし、せっかく建物できたけど、結局、使われていないとかでは意味がないので、最後の魂を入れるところは住民の責務であるということ、どのように周知していったらいいのかはわかりませんが、事あるごとに、伝えていく必要があると思っています。

【政策監】

住民の皆さんに喜んでいただけるように、使っていただけるように、そこはしっかりしていききたいと思います。

【社会教育委員】

資料のなかに「あなたのいい場所がありますか」というところがありますね。「居場所」ですね。居場所は年齢層によっても、地域によっても随分とそれぞれ違う面があります。一般に豊能町あたりでは、都会にあるような繁華街などを求めているのではないと思うのです。やはり、周りに自然が豊かで、豊かな自然の中で生きていきたいという人が多いと思います。そういう面で考えてみたときに、いろんな文化施設とか公共施設を充実するのも大事ですけども、自然環境をもう少し豊かにして利用しやすいようにしていくということも考えていく必要があります。

いろんな施設を充実させることは大事なのですが、自然環境もあわせて。豊能町に行ったらこんないいところがある。こんな山がある。こんな川が。こんな自然公園がある。というふうにそういう面の環境整備も一面では大事ではないかなと思います。

【政策監】

先ほどの資料で、「自慢したいところ」という項目があるのですが、豊能町のいいところというところでは、皆さん「自然」とあげておられます。そこはそういうイメージを崩さないような、そんな施設を、周りともマッチするような施設をつくっていきたいと思っており、しっかりとそこは考えていきたいと思っています。

【社会教育委員】

配布資料の見方なのですが、アンケートのデータの読み方がよくわかりません。「西地区のみ地域のシンボルとなるようなデザインの特徴が施設の割合が高かった」ということは、どう見たらそれが読み取れるのですか。％の付け方もよくわかりません。

【政策監】

データを集計したところ、式に誤りがあったということで、おかしいなと思って、再度、確認して本日資料を差し替えさせていただいたのです。

【社会教育委員】

差し替えてされていない資料でも、データをどうみれば読み取れるのかわかりません。

【政策監】

数値などは修正したところなのですが、文字だけはそのまま残ってしまいました。ですか

ら「地域のシンボルになるようなデザイン」というような文言は無視してください。資料は修正がうまく反映できていないとがあります。申し訳ございません。

【社会教育委員】

アンケートの自体の信頼性とか有効性という面で、2,000 人に配って 30%の回収率は、住民の意向を調査するアンケートとして有効なものであるか精査はしておられますか。

【政策監】

一般的に、400 を回収すれば、何回やっても同じようになるだろうというようなことが統計学上で言われております。そうなるようさせていただいています。

【社会教育委員】

回答数はクリアしていることはわかりましたが、資料の読み取り方、割合の変動とか見ても、何をどうとったらこのようになるのかがわかりませんでした。

【文化ホール運営審議会委員】

ユーベルホールについては、その方向性はもう出ているわけですね。

【政策監】

新しいもので、もう少しコンパクトなものに作り替えるというようなイメージをしています。

【文化ホール運営審議会委員】

具体化はしていないのですか。

【政策監】

大体 200 人規模ぐらいの規模のホールをイメージしています。会議室と併用となるかもわかりませんが、そこはしっかりとした設備であったり、防音等の設備、音響ということも考えられたものが必要だろうというイメージはもっています。

【文化ホール運営審議会委員】

文化施設なども含めて町としての規模、バランスがありますけども、目に見えないうちに生活水準がどんどん下がってきている感覚があります。それある部分はやむを得ないかなという気はします。過疎化の地域は全部そういうものを抱えているのですが、さきほどの環境の問題も、環境あまり残そうとすると、逆に自然が崩壊して、近隣でも獣が増えてきたり、

或いは荒廃することによって、病気とかそういうものの害虫も増えてきたりします。そういうものを含めてトータル的に考えていこうと思うと、行政としても手を尽くしようがない部分に入っていくのではないですか。

話を元に戻すと、ユーベルホールは将来的には無くなり建て替えるということですね。それは何年後ぐらいなんですか。

【政策監】

完成は、令和 13 年の 3 月までにということです。

ただ、いつ潰すかというのは、今のところまだ何とも申し上げられないところです。

【文化ホール運営審議会委員】

いつかを決められないような理由があるんですか。

【政策監】

新たな施設をどこに建てるかということが決定していないところがあります。一番安易な手法は、ふれあい広場に新しい施設をつくれば、それが完成するまでは今の施設は全部使えます。余計な代替施設の必要がないのですが、それがいろんなロケーションとかを考えていくと本当にその場所でいいのかということもあります。また、例えばユーベルホールでは、内部の設備が非常に老朽化しています。そこに、この 5 年、6 年後に施設を潰すのに、相当の改修費をかけなければいけないとなったときに、そこはどうするかということになります。今のところは、そういった点から何時というのは、もう少しお時間をいただきたいと思っています。

【文化ホール運営審議会委員】

ユーベルホールの問題は、随分前から課題とされていましたが、一時はイベントの数をふやすとかで採算効率を上げていくような話がありましたけども、それは達成できてないですね。イベント数はどんどん低下してますよね。

【政策監】

かつて、ユーベルホールを閉館するという話がありましたが、それ以降も残念ながら文化予算は全然増えていません。逆に減っているような状況で、活性化もなかなかできていません。ロビーを活用していろいろな使っていただいている状況です。

【文化ホール運営審議会委員】

住民生活にとっては、生活の水準を落とさないために必要な施設かもわかりませんが

も、行政にとっては結構お荷物ですね。

【政策監】

子どもの人口規模で言うと、かなり負担ではあります。財政的負担が大きいですね。

【こども未来部長】

担当課のほうでもユーベルホールを活用するのに、国庫補助金を財源にしてイベントを開くとか、ロビーを活用するなどの形で収入を増やすように努力しているのですが、根本的に設備の老朽化が進んでいます。その改修費は何十億になってしまうので、やはり今の町の財政状況でそれを収益で回収するということは難しいというのが実情です。

【文化ホール運営審議会委員】

それぞれいろいろなことを検討されていると思うんですが、いわゆる既得権益みたいなものがあって、今まであったものを守りたいというのはみんな共通しています。だけど、どこかで行政が断を下さないと。「皆さんどうですかって」と聞いている状況ではもうないと思います。

【文化ホール運営審議会委員】

私は利用する立場ですが、費用面から、この前は小学校を三つ集めてコンサートをやってくれたのです。今年の吉中の卒業式は光風台小学校の体育館で行わなければなりません。そこで、ユーベルホールで卒業式を行うことができたと思ったんです。だけど費用が高いので無理です。そんな場合、子どもたちに我慢させているのだから、少しぐらい使用料は下げてもらってもよいのではと単純にそう思います。2年間だけのことかもしれないけれど。

私、今、光風台小学校へ行っているのですが、今週から作品展をするのですが、体育館は全部閉鎖になって、そうなれば中学校のクラブ活動ができなくなるという状況のなか、担当の先生たちはすごいタイムスケジュールを決められてされている。現場ではそんな状況なんだから、そういうところの特別料金とか、それから住民が使う時とかは、もう少し料金を下げてください。料金を下げたら収入が減るのはわかるんだけど、設備も悪くなってるし、実際の運用するところでなんとかならないのかなとすごく思います。

【こども未来部長】

今年から吉川中学校の生徒が光風台小学校に移っていただいて、去年からいろんなことを想定していましたが、やはり始まってからわかる課題がいっぱい出てきています。その細かい部分の調整については、現場にいろいろと大変なご苦労をおかけしていると思います。

その中で、例えばユーベルで式をとというご提案をいただいたんですが、それができるかど

うか、今すぐにこの場で回答できませんが、何らかの形でそういうことができるのかは持ち帰ってみたいと思います。

【社会教育委員】

今すぐにできない理由は何ですか。

【こども未来部長】

例えば、例えば使用料もありますし、会場スケジュールがこれから調整できるかというところもあります。

【社会教育委員】

ユーベルホールの問題については、今から 13、4 年前にユーベルホールの休館・廃館という町長方針が出ました。それを読んで町の文化人が立ち上がってユーベルホールの存続を求める会っていうのを作って、それで 6,000 人弱の署名を集め、その話が撤回されました。

そのときのユーベルの一番大きな問題だったのは、設備の老朽化だったんです。すべての設備が経年劣化で全部やりかえると 1 億 2,000 万円かかる。それで、1 億 2,000 万円の予算が上げられるということで、私はその件を町長に確認に行きました。「1 億 2,000 万円予算化されるんですね」と訊いたら、「します」ということだったのですが、実際には、4,000 万円ずつの 3 分割の予算になっていて、初回の 4,000 万円は何かに使われたようですが、あとの 8,000 万円がどこに消えたかわからない。そのような状況であって、結局設備そのものは手つかずということになってしまったということです。

今度の公共施設再編ではそんなことはないと思いますが、町長も代わったことですし、約束した部分はちゃんと守るということだけはぜひお願いをしたいと思います。

【政策監】

いずれにしても、施設自体が老朽化しても相当費用をかけないと使えない。全体的にです。そこは必ずやっていかなければならない。やらないとどうしようもないので進めていきます。

【文化ホール運営審議会委員】

ユーベルホールの売却という話もでているのですか。

【政策監】

そういう話があったのかわからないですけど、最近ではその話は聞きません。

【社会教育委員】

今回は過疎債を充てるということでお話されていますが、これはたまたま過疎地指定されたから過疎債が使えるのですが、これを打ち出の小づちみたいに思われているのではないかと思います。過疎債は当然返さないといけないのですね。それで、施設を全部潰して、新たに何か建てるということで、今後、将来負担とかはどう考えておられるのですか。

【政策監】

過疎債は、その7割は国が負担します。残り3割が町負担です。当然、施設を集約していきますので、その全体の運営経費が下がってきます。過疎債は例えば3億を30年で返すとなると、1年に1,000万円返すということになります。理想的には、この施設を集約して浮いてくる経費でそれを返済することができればよいと考えています。まだ、その計算はできておりませんが、そんなイメージが考えられるのではというところです。

【社会教育委員】

イメージとしてはなんとなくわかるが、多分、潰すとなると大変な額になるし、そこに建設するとなれば額が加わるから、そこは本当に大丈夫なのかとすごく不安に思っているところがあります。それは当然、行政がやることだから、無理なことはしないと思いますが、それをしっかりと見せていく必要があるのではないのでしょうか。

何度も言いますが、過疎地に指定されたからこう方針がらっと変わることによってすごく違和感があります。町のあるべき姿があって、それを求めていくために投資をするのならわかりますが、過疎地指定されたことによっていきなり今まで言っていたことがらっと変わっているということ自体、僕はすごく違和感があります。その辺はしっかりと見ていただく必要があるかなと思います。

【政策監】

公共施設の再編は、過疎地指定される前からされてきた話で、進めている中で指定されてきたというような状態です。

【社会教育委員】

ただ、過疎地指定される前は複合施設案というものはなくて、指定されてからそういう話に変わってるから、何かすごく違和感を持っています。最終はそのあたりを、実際に過疎債を使ってどれだけの財政的なメリットがあるのか、検証しながらしっかり進めていただきたいと思っています。

【政策監】

そこは設計ができた段階で、ある程度の概算費用がでてきます。町の財政力とか国の予算もありますので、無限に使えるわけでありません。そこはバランスを考えながら進めていきたいと思います。

【社会教育委員】

社会教育活動において学校施設を開放してもらったりしてます。箕面市などは体育館を使うにあたっては、暑さ指数によってエアコン入れないと使わせてもらえないことになっています。今、現状では、東能勢小学校にエアコンがついていますが、卒業式や入学式ぐらいは使うけれど、部活動では使えず窓を全開にして活動しているんです。時代錯誤というか、今これだけ熱中症で死ぬ子が出ているのに、いまだにそれを使わせないのはよくわからない。

学校の卒業式、入学式それに災害時などに使うのであろうけれども、ほぼ避難所としては使われないので、年2回の卒業式、入学式のために、メンテナンスにいくら費用をかけているのかと思います。それらを含めて、子どもの活動のためには使用して当たり前だと思うのですが、今度新しい吉中になれば部活動も当然されますけど、それらはどう考えておられますか。

【こども未来部長】

それについては、他のところからもご指摘いただいています。せっかくつけて全然活用できてないと。それについては、何らかの形で、特に夏の熱中症が問題になっているので、暑さ指数の数値で基準を設けるなど、その辺については学校活動の中でも有効に使えるように考えております。

【社会教育委員】

箕面市ではプリペイドカードを挿せばエアコンが活用できる。これは受益者負担で仕方ないと思う。学校の場合は学校の活動だから、費用は町が持つとかは別にして、費用なしで使えるようにすればよいが、多分今の設備はプリペイドカードの対応ができていないから、また機器を導入しなければならないのではないか。そこで、今度の新しい学校の時は、そんなものをまた後でつけなければならないという事態にならように、最初からそれを想定した上で、ぜひ進めていただきたいということをお伝えします。

【社会教育委員】

この会議で立場的に何をしゃべったらいいのかと考えますが、ただ、今日、聞いていて、感想というか、思ったことは、先ほども言われていましたが、ワークショップが本当に活か

されるのかということで、よく、いい話し合いできたかと、みんなもそれなりにやった感で満足で終わってしまって、それが次に繋がらないとかということがあってもったいない話です。

それに、前にも申し上げたのですが、町長が15,000人の人口を維持したいと言われてることについては、私はいつもそれを聞いてちょっと残念に思って、どうしてもっと増やそうと考えるのかと思ってしまいます。

それで、今お金がない話とか、老朽化している施設の話が出ていますが、そこも、みんなの知恵を出し合っとうまい発想で人を呼び込むこととかできないのか。もっと、打って出るというか、そういうことってできないものかといつも聞いていて思います。だからといって、具体的な案をもっているわけではないですが、学校を預かっているものとして、今の子供たちに豊能町の未来について希望を持たせたいのです。子供たちはいろんなよい発想を持っています。町のこと考えている子どももおりますし、今のうちの生徒会長なんかは自ら職場体験で役場を選んで、町がどんなことをするのかとか、町のことを詳しく知りたいというので、「君もう将来町長になったら」と言っているんです。このように、子どもたちもいい町だと思っているんですけど、それをより発展させるようなこととか、そんなことを考えられたらいいなと思いました。

先ほど住民さんのアンケート結果でも「いい町や」と言われていると。「いい町だ」と思うのですよ。でも、それにあぐらをかいてはいけなないと思います。このいい町を維持というよりも、もっと発展させることは何かできないのかと思いますが、何も案がないんですよ。これは、いつも思うことです。

【社会教育委員】

過疎債は13年3月までに全部終了しなければいけないということで、スケジュールイメージを立てられておられるのですけれども、13年の3月が最終としてそれに向けて準備していたら、ここの部分はこれだけ余裕があるという感じのスケジュール化がされているような状態なのです。

そこで、ユーベルホールの取り壊しについても、まだどうなるか分からないとか、流動的な話がいっぱいあるのに、令和13年が最終だったら、そこまでに片づかなかったものはどうなるでしょう。令和13年が迫ってきたら、もうこれ以上考える余裕はない。仕方がないからこれでやってしまえ、時間がないから仕方がないですよというかたちにならないのかすごく心配なんです。

そこで、令和13年3月となっているけれど、もう少し早い時期に完了するスケジュールで組まれて、あとやり残してることはないか、ここの部分はどうなっているのかなどを考える余裕があるようなスケジュールの組み方ができないものではないでしょうか。住民からすれば、頑張っ

んな不安感がつきまとっています。不安感がすごくあるのです。

あと、豊能町は人が財産なのだと思いますが、人の繋がりがすごくある町だと思います。町の職員の方が思っている以上に町民は横で繋がっているんです。しかし、町は横に繋がれていない。

先ほど委員の方がおっしゃってた、他の方からこんなこと聞いたよとか、もちろん私の耳にも入ってきております。ワークショップに参加されている方から、「町の施設再編の部分は、私たちワークショップに参加してる人間にある種の決定権があって、社会教育委員の方の意見は通らないのよ」と言われております。それは、それで構わないと思うんです。ワークショップに参加されている方がそれぞれ熱心に議論されて、いいものを作ってくださいればそれはそれでいいんですけれども、「こっちの人間は知っているからあなたたちより有利なのよ」という発言がでることも私には違和感があります。

学校のほうの再編の委員もされている方からも、学校は学校のほうで進めているというお話も聞いていて、その意見についてもいろいろと聞かれてはいるんです。ここの小学校はどうか。ここの小学校はどうかって。それは、それぞれの小学校で委員をされている方がいらして、そこでそういう話になっているっていうことが、もう住民のなかではあるんです。なので、個々でのワークショップで、吉小、東ときわ台、光風台はこのメンバーと町のほうでは把握されているんですから、横の連携をもっととっていただいて、お互いがお互いを高めて同じ向きで話がまとまるように進めてください。

特に学校関連は設置場所によって、利便性の高いところとそうでないところがあって、後の活かしたかとかが全然違ってくると思うのです。その辺は、学校間で不公平感が出ないよう横の繋がりををもって、たとえば3回に一回はみんなが集まってワークショップをされるとか、そんな横のつながりをすごく大事にしていただけたらと思います。

【政策監】

スケジュール感については、これまでもそういうことが行政としてあつての発言と思います。そういうふうに感じられるような事例があつたのなら、申し訳なかったと思います。

今回のスケジュールについては、割とゆとりある時間設定とおまします。13年3月と言っていますが、実際は、12年の半ばぐらいまでには完成するようなイメージでも進めて、スケジュールが平気で遅れるような建築情勢ですが、ここは3年間をみていますので、そこは大丈夫ではないかと思っています。

あと、ワークショップ委員が権利を持っているようなお話だったんですが、それは初めて聞きました。それは残念に思います。そこは、ワークショップの参加者はあくまでも皆様の代表であるということを再度お話をしながら、いろんな意見を聞いていきたいと思っています。それに、コンサルまかせにならないために、この場でも先ほど申しましたように、何らかな形で、基本計画ができた段階で、いろんなご意見をお伺いできるように示していきたいと思

ってます。

ワークショップの中でも、今までの意見とそれからでき上がった基本計画のフィードバックをしながら、意見交換する場を設けておりますので、そこは、コンサル頼りにならないように、また、行政だけで進めることはないように進めていきたいと思っております。

【社会教育委員】

社会教育委員会では何を発言したらよいのかよくわかりませんが、青指とか CSE（学校運営協議会）、ワークショップなどに参加していますので、この場で何が発言されるかということを持ち帰るということで参加している意味があると思います。意見として何を言っているのかは今だにわからないのです。

先ほどのワークショップの件なのですが、私もそんなふうに言ってくる人がいるというのは初めてで驚きました。どっちかという住民の意見を聞いて、意見を吸い上げているという感じなので、社会教育委員の方が下なんてそんなことを思っていられっしゃる方がおられるとは驚きました。

豊能町の音楽連盟というものがあり、そこに所属しており、毎年音楽祭をユーベルホールで行っていますが、今回ちょうど30回を迎えました。ユーベルホールが竣工したときに音楽祭を始めたというのがなりゆきようで、それで、さきほど委員の方が言われたように文化度が大きく上がったのではないかというお話をよく聞きます。そこで、ユーベルホールが持続できないということは致し方ないと思うんですが、それに代わる何か、違うもので住民の皆様がちゃんと利用できるもの、そういうものは持続するよう考えていただきたいと思います。

【社会教育委員】

この会議が何のためにあるかわからないという話。それは実は今、私が感じています。以前にはこの委員会で答申を出したこともあります。しかし、町長が変わったら方針がひっくり返る。一小一中のときもそうです。この委員会では、一小一中で答申を出したはずですが、町長が代ったとたん方針がひっくり返って、出した意見が何だったのかなと思うし、そのときも意見をまとめて、具体的な方策などすぐ出したと思うのですが、全部ばさっとつぶしてやり直すという話になってる。さっき、お聞きした、東の方の学校の場所も最初は東能勢中学校でしたよね。私はそのあたりの事情が疎くなっているかもしれませんが、場所が変わったといま初めて聞いたところです。

出した意見はどうなっているのかということはあるし、今も、その施設再編の途中経過を話してるということで、私たちは今ここで何を聞かされて、何を言わなければいけない立場にあるのかというところがよくわからない状態です。

【社会教育委員】

最初の教育長の挨拶で、お会いできるのは年 1 回ぐらいという話がありましたが、この会議は年の一度ぐらいの開催頻度では効果が少ないと思います。本来ならば、議論を深めるために、頻度を三カ月に一回とかすることも考えていくべきです。

【社会教育委員】

実際、行政の方から来ていただく顔ぶれもどんどん変わっていく。とにかく町長が代われれば方針もころっと変わる。今議論していることも、13 年までに町長が代ったら、また、変わるのかなと。

そもそも 2 小 2 中となったときも、教育長が 5 年ぐらいで見直すとおっしゃったんです。東地区のほうはこのままでは人数が減りこどもがいなくなると。それをどうするのかという話になったら、5 年後には見直しをする。それまでに人口ふやす政策を出す。それで、2 小 2 中が持続できるようにしますというようなことを言われていたのです。実際、数年後には小学校一年生が 4 人とか 5 人とかぐらいしかない。そこでその見直しはするんですか。2 小 2 中の見直しはするのですか。

【こども未来部長】

今は 2 小 2 中にすることで進んでいます、今後、児童生徒が少なくなり、例えば 2 年生と 3 年生合わせて 8 人を下回ったりすると、2 年生と 3 年生で一つのクラスというようなかたちになります。複式学級というのですが、その複式学級がその一つの学校で二つ以上になってくると、その学校の方向性をもう一度考えるというような形で最終意見がまとまっています。ただ、考えるというのは、必ず 2 小 2 中を 1 小 1 中に戻すというのではなくて、教育委員会の方とか学校が中心となって、どういう形でできるかっていうのを考えているんですけども、そういう、少人数教育、少人数の学校にもやっぱり、メリットとデメリットがあります。そのデメリットをメリットに変えとか、少人数ではここはあかんけどもここはいいという教育ができるようなことについて、今どういう教育ができるかをいろいろ検討しているところです。

【社会教育委員】

公共施設再編のなかに学校の再編も入れていかないと別々にやっていたら、本当に全然あかんと思うんですけど。

【こども未来部長】

まず学校のありかたというのが町の方針で決まっており、今は東西に 1 校ずつ、2 小 2 中という形で進んでいます。町の方針として、それとは別に、公共施設とかどうするかとい

うところも、それはそれで別に今進んでいるという状況になっております。

【社会教育委員】

ワークショップをしても、アンケートを取っても、結局、行政がこうしますよっていう形になる。結局、意見を聞くだけは聞いて、でも結局これみたいな話になってしまうのでは。

【文化ホール運営審議会委員】

学校の状況も、今までとは変わってきている。

昔は複式学級、昔はそうものがあったわけでしょ。歴史をたどれば。

【こども未来部長】

昔は豊能町内の高山小学校というところで複式学級で運営をしておりました。

【文化ホール運営審議会委員】

過疎化が進んでいるなかでは、多くの自治体がそうところを問題として持っているでしょう。そこは国レベルではそういう指導はあるんですか。

【こども未来部長】

特に国がどうこうという指導はありません。ただ、人口減少というのは残念ながら日本全国レベルになっているので、当然のことながら複式学級でもあっても、その地域性であるとか、教育内容を充実させて学校にしている市町村もありますし、それを機に、例えば統合というかたちのところもあります。

人口が少なくなるとどうしても、そういう形で運営をするというかたちになります。

【こども未来部長】

複式学級や少人数学級がすべて悪いかといえ、そういう教育も現状では一部では存在します。そこで、児童数が少なくなったから、必ず1小1中に戻すというのではなく、その段階でもう一度、どういう教育ができるか見直すということです。

【社会教育委員】

いや、1小1中に戻せとかいう話ではなく、私たちが答申したことはどこに行くのかというところで意見を反映されないままで、1年1回で来年また会いましょうと言われてもなんだろうという感じなのです。

【文化ホール運営審議会委員】

実態は行政の方が一番わかってるんだから、どうしようではなく、こうしようという投げかけをしてもらって、それについて問題があれば改善していくみたいな、そういうかたちにしていかないと。相談していたらまとまらない。

【社会教育委員】

複式学級というのはわかるけど、ここは離島ではないので。離島で船で1時間かかるところならわかるけれど、ここはバスで20分あれば通学できる。そこをよく考えてもいいと思う。2学年で8人しかいない、そんな学校で教育の魅力はないと思います。

そこは個人個人で違うから、少人数の学校を選ぶ人はいると思うけど、そこはよく考えたほうがいいと思うし、本当にそれで子どもたちの先々考えた教育が成り立つのかすごく不安です。

【社会教育委員】

うちには孫がいて、息子夫婦は保育所は受け入れてもらえるのでとてもありがたいが、小学校は別と言っています。孫は新しい義務教育学校に行くことが決まっているわけです。そこに行くのならば、他所に引っ越しも考えていると実際のところ話はしています。やはり、吉中に西地区の学校がひとつになって、そこにどれだけの魅力があるか、それがどれだけ表向きに発信されているか。それらによって、今、乳飲み子を抱えてる世代の人たちは考えるわけです。小学校に入ると同時に、よそに転校する方やオルタナティブスクールを選択する人もいらっしゃるでしょうし、そういうところが誘致できたらいいのにねと、という話も含めて、義務教育学校になれば9年間になるので、その子供の教育のために引っ越してもよいと、そこまで考える親御さんはいっぱいいるのです。なので、そういった人たちを呼び込むような、学校があるから引っ越してくるようなことは私はあります。できれば、高校もここから通わせたいけど、交通費がかかるから外へまた出ていかないといけないというのものもあるかもしれないですけど、勝負どころではないのかなという気はします。

【文化ホール運営審議会委員】

学校現場では、親御さんがここ卒業生の方がものすごく増えています。だから、おじいちゃんおばあちゃんの元に帰って来たという話が多いのです。それは何と云えば、自分が育った自然がある豊能町で子どもを育てたいって人が結構おられたのです。だからそこを大事にしてください。それから以前の委員会で人口増やす方法を言われておりました。施策で、例えば、リノベーションした家の活用とか、箕面森町で仕事してる人にここで住んでもらうとか、ところが今はそういうところは全然見えてきてない。今度、一の鳥居に事業所ができるのですね。あの辺からだったらちょうどいい通える場所だけど、これらの施策はこの場で議論するところではないでしょうけど、それらの情報はぜんぜんはいつてこない状

況だから残念です。

【社会教育委員】

「学校協議会たより」を配らせていただいています。住民の人たちが学校と一緒に教育をサポートをしているんですけど、学校すごく頑張られています。私は東地区のほうですが、西のほうもすごく頑張っておられます。それを何とか外に発信しようと今頑張られているのです。そこで、その発信の仕方が素人なので、どうやったら住民さんに届くのかといったところをぜひアドバイスいただきたいぐらいなので、そんな場の機会があればよいと思っています。

【社会教育委員】

町内には空き家が多いが、明らかに住める空き家が少ない。うちの近所でもいっぱい家が空いているのですが、それが売りに出されるとか賃貸に出されるとかが無いのです。ほったらかしのお家が多く、それを本当にどうにかならないのかなと思っています。空いてれば住みたいという人がいると思います。都会にもそこそこ近いし、安ければ、戸建てがここでできる。保育所待機児童も無い。そうしたら若い夫婦でここへ子育てしたい人はあるはずと思いますが、空いている家が少ないのです。

【社会教育委員】

町営住宅の跡地も更地のままですよね。お金さえあればというところなんでしょうけれど。

【政策監】

最後に、今、町政懇談会をしまして、新光風台、ときわ台地区でお配りした資料をご参考にお配りします。

【生涯学習課長】

それでは今日は、社会教育委員会、文化ホール運営協議会の合同会議ということで、何をテーマにというのは皆さん、いろいろお持ちだとは思いますが、この場に出していただいた意見で、町として取り入れたいことなどがまた見てくるところもありましたので、ぜひそのあたりを踏まえて、今後また検討させていただきたいと思います。では本日はどうもありがとうございました。